

サンライズ工業

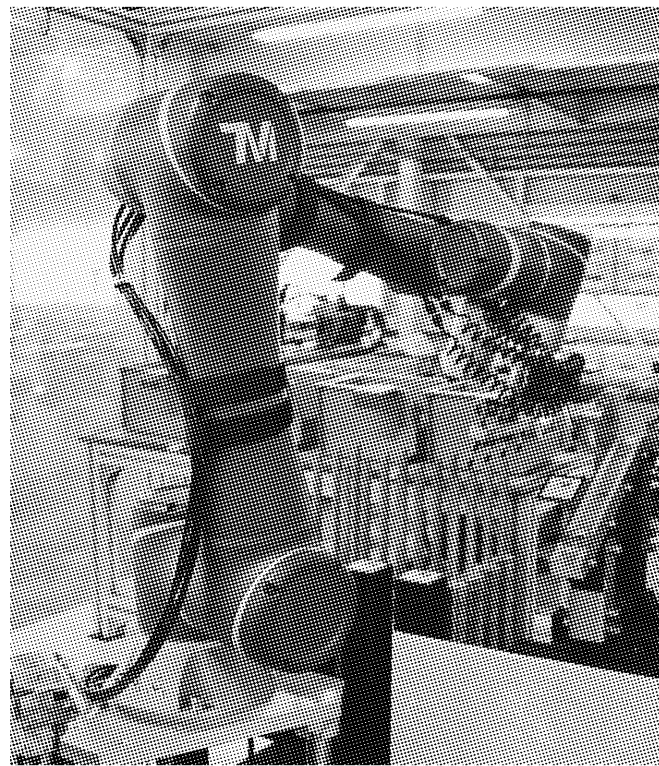
台湾を拠点とするテン積層の専用装置にな
ックマン・ロボットのつてしまった。工場内
TM5-900を最初にはもつとロボットに
に購入したが、20年置き換えができる作業
4月。パーツフィダーがある」（生産管理部
1（供給装置）など周熱交課の小椋大樹課
辺機器の導入には、埼玉県越谷市の
玉泉産業振興公社の「ビジネスパワーア
「埼玉県中小企業もの補助金」を使って2
づくりA.I.・IoTは銅管の穴開け作業の
ロボットシステム導入は銅管の穴開け作業の
ライアル補助金」を活用して自動化を担っ
用した。

フィーダーから供給されるフィン
ロボットの吸着ユニットで運び、軸に重ねて積層する工程を自動化した。ロボット導入で、人手による場合の労務費年間55万円が削減できたほか、同418時間の作業時間の短縮につながった。

「受注拡大により導入したロボットがフィ

ロボットと働く

銅管の穴開け 自動化

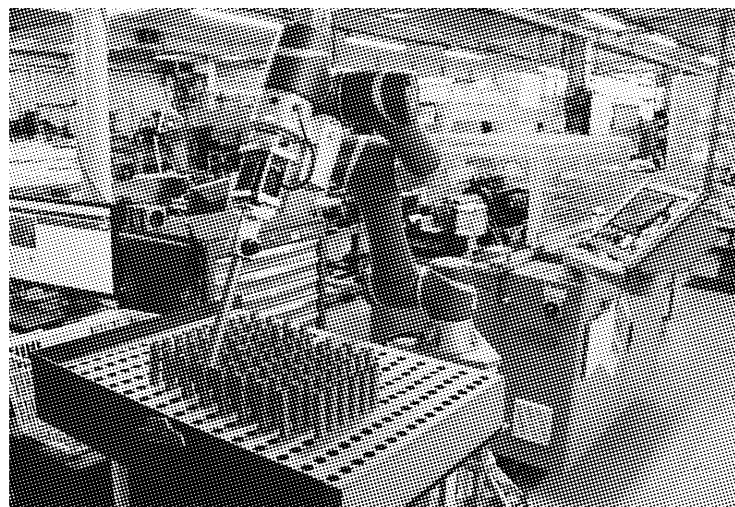


①ロボットが銅管をつしつかり固定されている業と分離する必要があ
かむ②穴開け装置までなくとも、ロボットが正確に作業する。
運ぶ③銅管を装置に押し正しく作業する。
し込む④操作盤のスイッチを押してロボットと安全柵のスペース
ツチを押す⑤加工が終了穴開け装置の入出力を空間が不可欠になる。
わると再びスイッチをつながら、ロボットに一方、協働ロボット
押ししてストップする⑥操作盤のスイッチを押して人と作業空間を共有
銅管を取り出す⑦箱にさせることで、他の作業も簡単に入れた
入れる⑧で構成する。業にロボットを転用し「購入したもの、
カメラでターゲットを認識して位置を判断する。ロボットは強調する。しまっ心配もない」
ットや穴開け装置、操業用ロボットは周（松下取締役）と協働
作盤、ワークの位置が困を柵で困って人の作ロボットを導入した理

年間418時間 作業短縮

社長）、「覚えが早い（松下取締役）、「責任感がある」（小椋課長）と仕事ぶりにそろって太鼓判を押す。

由を説明する。フィンの積層と銅管の穴開けを担う2台のロボットとも、入社6年目の山脇一馬さんが関連して当社が貢献できる分野は、もっと幅当する。「楽しんで作業している」（中山ヨンを描く。



①最初に導入した協働ロボットはフィンの積層に活用
②2台目のロボットは銅管の穴開け作業を自動化